

THE DOOR TO THE BOOKS

図書館統計のお知らせ

10月の貸出冊数は340冊です。
昨年度は259冊でした。
10月昼休みと放課後の
入館者数は444人でした。



こんにちは!図書委員会です。
気温も下がってきて、やっと冬が来たような感じがしますね。
五高の銀杏が綺麗に色づきました。テストも終わり、外に目を向けて見ましょう。
さて、11月は読書の秋ということで、図書だより第二弾!
普段読書をしない人でも楽しめる、読みやすい本を紹介します!

令和5年度
五島高校:図書委員会
11月1日作成
11月30日発行

図書委員制作担当

2-1
1-1

イラスト部制作担当

2-2
2-4

あなたも恒川ファンになる!

秋の牢獄

著者:恒川光太郎 出版社:角川書店

- ・一日を何度も繰り返す女子高生。
- ・移動する古屋敷から1人出られなくなった青年。
- ・能力者として育てられた、幻影を操る少女…

“牢獄からの解放”を描いた美しさと恐ろしさに満ちた3つのお話からなるホラーファンタジー。
怖くて気味が悪いはずなのに妙な居心地の良さを感じてしまう不思議な世界観がもう最高です。
秋の美しい情景とあの季節だからこそ感じる独特な淋しさを味わえる至高の一冊、ぜひお試しあれ。

元気が出る処方箋あります!

時をかけるゆとり

著者:朝井リョウ 出版社:文藝春秋

就職活動生の群像『何者』で戦後最年少の直木賞受賞者となった著者。

この本は、ご自身の青春エピソードを綴った笑えるエッセイ集です。著者は、役に立つ本では無いと言っていますが、悩みの多い私たちには笑うことで救われることもあります。

読書が苦手な方でも、頭からっぽで純粋に文章を読む楽しさが味わえます。

※涙が出るくらい笑ってしまうので、朝読には不向きです。

<ゆとりシリーズ>

- ・風と共にゆとりぬ
- ・そして誰もゆとらなくなった

泣きたい人へ!感動の青春小説

君の臍臓をたべたい

著者:住野よる 出版社:双葉社

この本は、臍臓がんを患った山内桜良と、たまたま桜良の病気を知ってしまった志賀春樹との物語で、桜良は春樹に残りの時間を一緒に過ごすように提案します。

そして、春樹が桜良に最後に送った言葉は「君の臍臓を食べたい」と言って、お互い尊敬しあう関係だから言えた言葉です。

私はこの本を読んで、桜良の一つ一つの言葉に重みを感じました。余命宣告されている桜良だからこそ、健康な私たちの胸に刺さるわけで、今日を精一杯大切に生きようと思える作品だと思います。

認知症の祖父が名探偵!?

名探偵のままでいて

著者:小西マサテル 出版社:宝島社

日常の中で起こるミステリー!

孫娘の楓の身の回り起きた謎を話して聞かせると、普段は認知症の祖父の頭は冴え渡り、タバコを片手にその謎を解決していきます。

展開にドキドキしながらも何処か心が温まるような話。祖父との会話に家族の温かさを感じます。タイトルもなるほど。

読みやすいのでオススメです。

2022年『このミステリーがすごい!』大賞の大賞受賞作品。

青春は最高です!

ロケットボーイズ 上・下

著者:ホーマー・ヒッカム・ジュニア 出版社:草思社

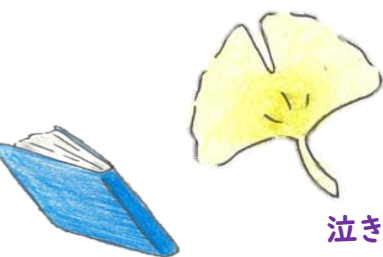
1957年10月4日、ソ連は初の人工衛星スプートニクの打ち上げに成功した。

その大事件は、炭鉱町コールウッドに住む少年ホーマー・ヒッカム・ジュニアにも大きな感銘を与える。

「ぼくもロケットをつくってみよう」そう考えた彼は、仲間とともにロケットづくりに取りかかる…。

落ち込んだ時に読むと、主人公のいつもポジティブな姿にとても元気づけられます。

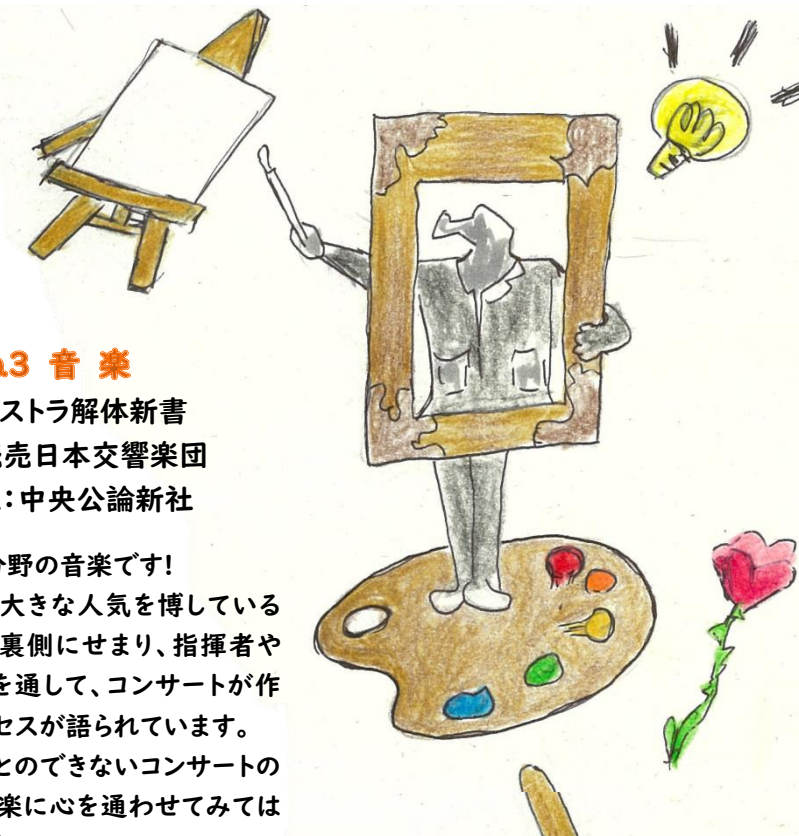
みなさんもそんな時はこれを読んで、前に進む元気をもらってください!



いろいろな学問に触れよう!

秋は、「芸術の秋」「学問の秋」「食欲の秋」など、いろいろな呼ばれ方をします。秋はそれほど過ごしやすく、何をすることも集中できる季節だということなのでしょう。

この晩秋を無碍にしないよう、自分の世界を広げていきましょう!
そこで私の興味のある教養の世界に少しだけ、みなさんを順番に誘います。
飛び入り参加された●●先生のおススメの本もお見逃しなく!



No.3 音楽

オーケストラ解体新書
著者:読売日本交響楽団
出版社:中央公論新社



続いて芸術分野の音楽です!
この本では、大きな人気を博しているオーケストラの裏側にせまり、指揮者や楽団員の思いを通して、コンサートが作られていくプロセスが語られています。
普段、知ることのできないコンサートの裏側を知り、音楽に心を通わせてみてはいかがでしょうか。

時間は増やせる!

神時間力

著者:星渉 出版社:飛鳥新社



第●学年●●先生のおススメの本!
先生はこの本を読んで、実践していることがあるそうです。「時間がない!」と言っているあなたのために、この本を図書館へ寄贈していただきました。
対話形式になっていて、とても読みやすく分かりやすい内容です。
試したあなたは、西村先生とコミュニケーションできるかもしれません!?

No.2 化学

マンガと図鑑で面白い!

わかる元素の本

著者:うねたに夫婦 左巻健男
出版社:大和書房



次は化学です!この本では化学の基本の「き」ともいえる元素について、化学が苦手な人に向けたマンガでのわかりやすい解説と、得意な方やマンガを見てさらに元素のことについて知りたいと思った方に向けた図鑑での解説があります。

化学が少し不安な方やもっと元素について知りたい方は是非読んでみてはいかがでしょうか?

No.5 物理

旅人 ある物理学者の回想

著者:湯川秀樹 出版社:KADOKAWA



最後は、物理です!

日本人で初めて物理学ノーベル賞を受賞した、湯川秀樹氏自身による回顧録。27歳になるまでの半生を語った本です。

古き良き日本の時代の様子が、湯川博士の生活や日々の思いや、また博士に関わりのあった家族、友人、恩師との思い出を通して、大変よく伝わってきます。

心に響くこと間違いありません。

No.1 数学

スウガクって何の役に立ちますか?

著者:杉原厚吉 出版社:誠文堂新光社



トップバッターはスウガクです!
みなさんはスウガク、得意ですか?苦手だという方も多いと思います。得意だという方もスウガクは何の役に立っているのだろうかという疑問を持つ方もいると思います。

この本には、身近で役に立つ使い方や社会に出てから活かせる使い方など、たくさんのスウガクの使い方を知ることができます。

スウガクに苦手意識のある方も是非この本を読んでみて、日常生活に使ってみてください!

No.4 美術

美しい日本の伝統色

著者:森村宗冬 出版社:山川出版社



芸術分野からもう一つ、美術です!

「韓紅花(からくれなゐ)色」「御召茶(おめしちや)色」「麴塵(きくじん)色」、これらは日本に古くから伝わる伝統色です。

日本には外国と比べ物にならないほどたくさん色が存在します。

この本で日本の伝統色を知って、日本の風流ある雰囲気や心を寄せてみてはいかがでしょうか。